

令和三年度 奈良県知事賞

「真の納税者」

西大和学園中学校 三年 五味 史考

ある寺に仏像を見に行った帰りに、僕はレストランの前を通った。よく見てみると、それは障がいを持った方が働くための場所で、運営していたのは市だった。つまり税金によって運営されていたのである。僕はその時、税金の必要性を強く感じた。

僕はそれまで、消費税が上がったことから、なぜそれほど多くの税金が必要であるか不思議だった。中学一年生のときの公民の授業で、大きな政府と小さな政府の仕組みや違いを学んだ。今の日本は、いくつかの事業の民営化をしていき、大きな政府から小さな政府に転換しつつあるので、税率アップは本当にしなければならないのかなあと疑問に思っていた。しかし、その答えを目で見て気づいた僕は、国の政策にも納得できた。税金の役割の一つとして、あらゆる人への支援に充てるというものがある。特に社会的に立場が弱い人には、地方自治体が率先して支援して、より良い生活を送れるようにしなければならない。そのためには、僕達がみんなで分担し、税という形でお金を払い、協力することが必須だと思う。

僕は、健康に生まれた者はそれに値する貢献をし、お礼として社会に返す義務があるという信念を持っている。そしてそのお礼は、障がいを持っているなど社会的に立場が弱い人達にも向けられるべきだと思う。そうは言っても、僕達は社会的弱者が満足するような社会への貢献を簡単におこなうことはできない。そこで、市区町村をはじめとする地方公共団体がたくさんの人から集めた税金を使って、僕が見たような施設をつくり、社会的弱者に支援をすることで、彼らはより円滑に生活することができる。つまり、僕達が働き税金を払うことで社会に貢献できるのである。

僕は大人になったら、できる限り社会に協力していきたいと思う。なぜかと言うと、僕達人間はいつ社会にお世話になるか分からないからである。例えば、明日交通事故に巻き込まれるかもしれないし、病気になるかもしれない。世界中にあふれる程たくさんいる人類の一人として生まれたからには、自由に動けなくなる前により社会に貢献したい。

この国日本は、社会保障が充実している素晴らしい国だと思う。しかしそれは、先程述べた義務を先人達が果たしてきた痕跡である。だからこそ、僕達一人一人は税制の本質を理解して、社会保障という日本の素晴らしい制度を残していかなければならないと思う。僕も、税とは単なる大人に課された義務ではなく、「より多くの人々が幸福な生活を送ることができるための制度」だという本質を理解した「真の納税者」になりたい。

